1. 評価報告概要表

作成日　平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4079500114
法人名	有限会社良生会　糸田苑
事業所名	良生会　グループホーム糸田苑
所在地 （電話番号）	福岡県田川郡糸田町1698番地1 （電　話）0947－26－4515

評価機関名	株式会社　アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2－2－51		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年12月19日

情報提供票より】（20年　9月29日事業所記入）

⑴組織概要

開設年月日	平成　13年　11月　1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27　人
職員数	19　人	常勤　15人，非常勤　4人，常勤換算　12.9人	

2)建物概要

建物形態	併設／(単独)	新築／(改築)
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての　2 階　～　3 階部分	

⑶利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　860円			

4)利用者の概要（9月29日現在）

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	9　名	要介護2	10　名		
要介護3	4　名	要介護4	3　名		
要介護5	0　名	要支援2	1　名		
年齢　平均	84 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

⑸協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットで構成される当ホームは、建物の2階と3階部分を利用して作られており、同建物の1階はデイサービスとなっている。そのため、比較的人の行き来が多く、いろいろな人との交流を持つ機会が多く持たれている。また、ホームに地域の人を招いたり、逆に地域の行事に出て行ったりしながら、地域との連携も深めている。今後は利用者も地域住民として、さらに社会参加していく機会を持たなければならないとの思いを持って、職員はそれぞれの利用者の日々の暮らしを支えつつ、介護に当たっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価での改善項目については、施設長をはじめ、管理者と職員で検討・話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い、改善を図っている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価については、ユニット毎に話し合いを行い、その後にもそれぞれ意見を出し合いながら作成したが、評価の意義については、職員には詳しく伝わっていない状況である。また昨年の改善点についても話し合いを行ったが、改善計画書を作るまでには至っていない。自己評価は、これまでの業務を振り返る場として実施していくことが求められる。それらの意義を職員全員が十分理解した上で取り組んでいくことが必要ではないだろうか。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）

民生委員や役場職員、利用者の家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告している。しかし、今のところ、地域からの出席者が民生委員だけである（民生委員もここ何回かは欠席）。今後は区長等にも参加してもらうことにより、地域の情報の収集や地域への発信等を行い、さらに多くの意見を出してもらえるような会議としていくことが望まれる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8, 9）

ホームで何かあれば、その都度電話や面会時に話をするようにしている。今のところ特に、苦情や意見を言われたことはない。ただ、事故が起こった際、軽微なものについては家族に連絡が行われていない場合が見受けられる。家族等の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係を築くためには、積極的な報告が不可欠である。報告を丁寧に行っていくことで、家族からの要望や本音を伝えてもらうことにもつながっていくのではないだろうか。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

行事の時（夏祭りやお月見会等）には、地域の方々に声かけを行っており、積極的に参加してもらっている。またホーム側から地域の行事（環境美化や敬老会、文化祭等）に参加する機会も多い。

2. 評 価 報 告 書

（▒▒　部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 **地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている**	地域の中で生活することを支えることが出来るように、「私達は近所づきあいを深めていきます」という具体的な言葉を持って、理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み **管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる**	毎朝、理念を唱和することにより、意識付けとなり、職員それぞれが理念の達成に向けて日々取り組んでいる状況である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい **事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている**	行事の時（夏祭りやお月見会）には、地域の方々に声かけを行っており、積極的に参加してもらっている。またホーム側から地域の行事（環境美化や敬老会、文化祭等）に参加する機会も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 **運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる**	自己評価については、ユニット毎に話し合いを行って、その後にもそれぞれ意見を出し合いながら作成したが、評価の意義について、職員には詳しく伝わっていない状況である。また、昨年の改善点についても話し合いは行ったが、改善計画書を作るまでには至っていない。	○	自己評価は、これまでの業務を振り返る場として実施していくことが求められる。それらの意義を職員全員が十分理解した上で取り組んでいくことが必要ではないだろうか。また、改善計画書も作成して、改善の実施に向けて、取り組んでいくことが求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み **運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている**	民生委員や役場職員、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告している。しかし、ここ何回かは、民生委員が多忙のため欠席している状況である。		今のところ、地域からの出席者が民生委員だけである（民生委員もここ何回かは欠席）。今後は区長等にも参加してもらうことにより、地域の情報の収集や地域への発信等を行い、さらに多くの意見を出してもらえるような会議としていくことが望まれる。

グループホーム　糸田苑

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 **事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる**	今のところ、運営推進会議以外で行き来する機会はほとんどない状況である。	○	町の担当者にホームの考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいくことが望まれる。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 **管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している**	昨年も要改善項目となっていたが、今のところ、まだ勉強会を開催するまでには至っておらず、パンフレット等も揃えていない状況である。	○	特定の職員だけではなく、全職員が制度についての理解を深めてほしい。ホームにパンフレット等を常備し説明できるようにし、誰もが関係機関に対する橋渡しができる状態にしておくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 **事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている**	行事の時の写真を使って「苑だより」を作成しており、1ヶ月に1回、利用者の家族等に送付している。また何かあれば、その都度電話や面会時に話をするようにしてはいるが、軽微な事故については報告がなされていない。（事故報告書の作成はなされている）	○	家族等の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係を築くためには、積極的な報告が不可欠である。報告を丁寧に行っていくことで、家族からの要望や本音を伝えてもらうことにもつながっていくのではないだろうか。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 **家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている**	家族が面会に来た際に直接話を聞くようにしているが、今のところ特に苦情や意見を言われたことはない。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 **運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防く配慮をしている**	極力異動は行わないようにしている。退職等により職員が入れ替わる時には、必ず1ヶ月程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるように配慮している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 **法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している**	職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。		
12	20	○人権教育・啓発活動 **法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる**	利用者は人生の先輩であるので、十分敬って対応するようにと、日頃から職員に話しをしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み **運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている**	テーマについて職員2人1組で考えてもらって、その内容についての勉強会を月1回開催している。外部研修については、ほとんど案内等が来ない為、今のところ参加する機会が少ない。また、研修の年間計画についても今のところ作成は行っていない。	○	今後は、それぞれの職員が段階に応じた研修を受けることができるような体制作り、年間計画等の作成をしておくことが望まれる。また外部研修に参加した場合は、報告の時間をとって、他の職員に説明を行ったり、資料を回覧する等して、知識や情報を共有していけるような体制づくりが求められる。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 **運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている**	同系列のグループホームとの交流はあるが、他の法人のグループホームとの交流は今のところ行っていないが、役場職員から、今後、他のホームとの連携を取る場を持ってはどうかとの提案がなされているところである。	○	事業所の質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠あることを運営者が認識し、職員同士の交流や連携を行えるような具体的な取り組みが必要になってくるのではないか。せっかく役場職員から提案があっているようなので、今後ぜひ話を進めていくことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 **本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している**	ホーム側から面会に行ったり、利用者や家族に事前に見学に来てもらい、雰囲気を見てもらった上で入居を決定するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 **職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている**	本人本位ということを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることは行ってもらったり、利用者が得意なことを教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 **一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している**	普段の会話の中から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 **本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している**	それぞれのユニット毎に、計画作成担当者と職員が話し合いを行いながら、計画を作成しているが、家族の意向については、入所時には聞き取りを行っているが、その後は特に意向を言われることもない状況である。	○	職員側の視点も大切だが、家族の現状や意向も当然大切にしながら、利用者がよりよく暮らす支援として何が必要か、家族と共に利用者本意の検討を行うことが必要ではないだろうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し **介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している**	3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。また、状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにはしているが、モニタリングの結果を記録に残していない。	○	記録として残っていないと、どのような評価を行った上で計画が変更したのかがわからないので、今後はきちんと記録として残しておいてほしい。また、見直しを行う際には、職員をはじめ、利用者本人、家族とも話し合いを行いながら取り組んでいくことが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 **本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている**	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 **本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している**	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をいている利用者もいれば、協力医の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 **重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している**	今のところ、ホームでの終末期の対応は行っておらず、医療機関で対応してもらうこととしている。終末期についての指針を作成しており、本人や家族にも、入居時にその旨説明しており、理解してもらっている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 **一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない**	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についてもスタッフルーム内の鍵がかかる棚で管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし **職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している**	一応1日の流れはあるが、それにとらわれず、臨機応変に対応するようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 **食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている**	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 **曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している**	希望があれば毎日でも入浴可能である。時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 **張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている**	利用者が出来ることが、いつの間にかそれぞれの役割となっており、職員が誘導しなくても、それぞれが自分のペースで自然に行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 **事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している**	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 **運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる**	1階の入り口、各階の玄関共に鍵をかけないようにしており、万が一外に出るようなことがあっても、ドアにセンサーをつけているため、その音でわかるようになっている。		
30	73	○災害対策 **火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている**	年に2回避難訓練を行っているが、今のところ、夜間を想定した訓練は行われていない。また、地域の協力を得るための働きかけも行っていない状況である。	○	職員だけでの誘導の限界を踏まえて（特に夜間帯）、地域住民の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みを行っていくことが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
⑸その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 **食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている**	正確なカロリー計算までは行っていないが、バランスのよいメニューづくりを心がけている。時々法人内の栄養士にメニューを見てもらって意見ももらっている。また水分量の確保には十分気を配っており、おおよその摂取量を記録に残すようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり ⑴居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり **共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている**	リビングは広々としており、ソファや食卓も一般の家庭で使用しているようなものが置かれており、ゆったりと心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 **居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている**	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		